

石川町から

世界品質の試作品加工を

目指す企業

企業
訪問

株式会社エヌ・ティー・エス

代表取締役社長 生田目 将弘

(なまため まさひろ)

- 所在地 福島県石川郡石川町沢井藤沢95-18
- 創業 1970年(昭和45年)
- 資本金 5,000万円
- 従業員 73名
- 事業概要 航空宇宙機器部品加工、自動車部品加工、医療機器部品加工、3Dモデリング、三次元金属積層造形製品制作

福島県の製造業の売上高は全国23位の5兆5,603億円（総務省：2023年経済構造実態調査）で、東北では宮城県を上回る東北一の工業県となっています。ものづくり福島県には優れた技術、製品で国内外から高い評価を得ている企業も数多くあります。

（株）エヌ・ティー・エスは、航空宇宙・自動車・自動二輪車・船舶に至るまでの金属製品の試作品・製品加工を、国内外の大手メーカーから受託製造している企業です。今回、石川町の本社・工場を訪問し、生田目社長に入社の際の経緯から今後の展望などについてお話を伺いました。

■プロのオートバイレーサーになる夢をあきらめ、ものづくりの世界へ

～ご実家の家業を継いだ経緯を教えてください

私が小学校3年生の時に、オートバイが大好きだった兄が高校を卒業したばかりの頃にオートバイの事故で亡くなりました。人によっては、オートバイを嫌いになってもおかしくない出来事ですが、私は逆に、兄は何でそんなにオートバイが好きだったのかという興味が湧き、中学卒業後からオートバイで走ることに魅力にのめり込みました。20歳の時にオートバイのプロレーサーを目指し、横浜市のバイク店に従業員兼ライダーとして入社しました。

ただ、プロを目指す世界は過酷で思うような結果が出ず、大好きなオートバイで暮らしていくのは厳しいと感じていた時に、一緒に同じ夢を追い



プロのオートバイレーサーを目指していた頃の
生田目社長



浅川町にあった初代工場

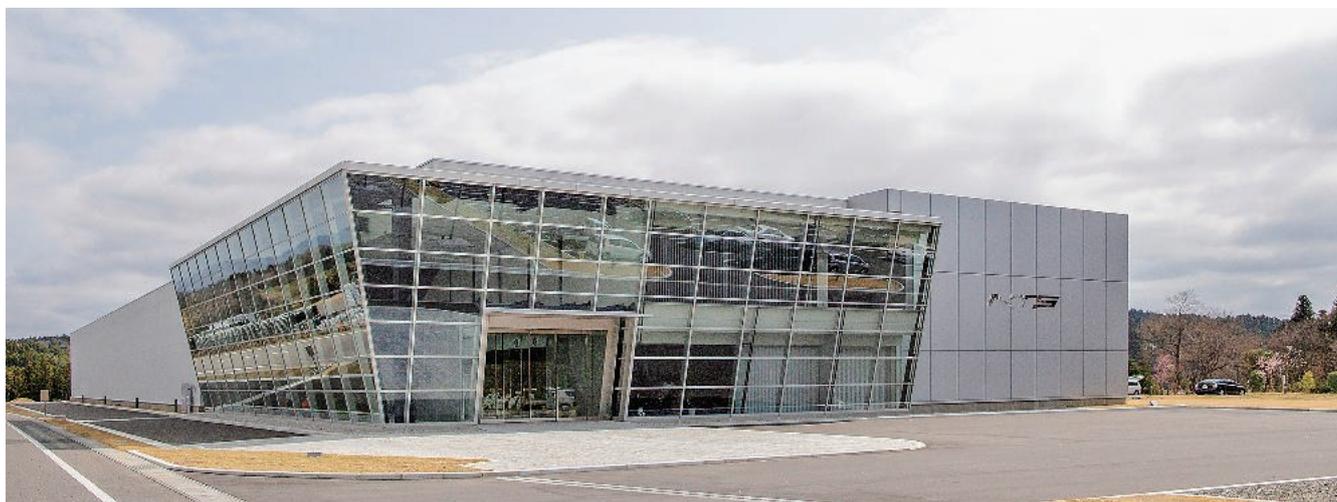
かけていた後輩がレース中の事故で亡くなりました。そのことがきっかけで21歳の時にプロレーサーになる夢をあきらめ、父が当時、浅川町で経営していた金属加工業の生田目製作所に入社しました。従業員は、父、母を含め5人で、金属加工の下請けを行っている会社でした。東京で加工業をしていた父が帰郷して、1970年にベンチプレス（卓上旋盤）1台で操業した会社です。

その頃、面倒を見てもらったのが、栃木県黒磯市にある取引会社の社長でした。実家での仕事が終わった後、2年ほど毎日黒磯市にある工場に通い、見積の仕方から、ものづくり、お金の稼ぎ方や大切さ、仕事の大変さ、付加価値のつけ方など数多くのことを教えてもらいました。私にとっては恩人で、その人に出会っていなかったら今の自分はないと思っています。

現在の（株）エヌ・ティー・エスに改称したのは、私が代表取締役役に就任した2002年8月です。2004年に本社・工場を全面改装、2021年には石川町に本社・工場を移設しました。

～事業内容について教えてください

現在は、ジェットエンジン・ロケットエンジン・ガスタービン部品の耐熱合金の切削加工や自動車開発関連部品・エンジン部品・内燃機関連部品・車体フレームの開発品試作、船舶のプロペラ・スクリューの試作などの試作部品受託会社として高品質・短納期・適正コストのコンセプトを掲げ、試作品加工や小ロット数の精密金属加工部



2021年に石川町へ移設した(株)NTS本社・工場

品の製造請負などに取り組んでいます。取引先は大手重工業や国内外の大手自動車メーカー、自動二輪メーカーなどです。

当社の特徴としては、自社一貫生産体制による柔軟で迅速な対応力で、材料調達から特殊表面処理まで対応しています。金属3Dプリンタや5軸マシニングを活用した自由な曲面・複雑な形状の精密な加工で、精度の高い品質の部品を供給しており、アルミや鉄はもちろん、チタン・ハステロイといった難削材でも対応可能です。金属3Dプリンタは10台保有しており、設備保有数は国内トップクラスだと思います。

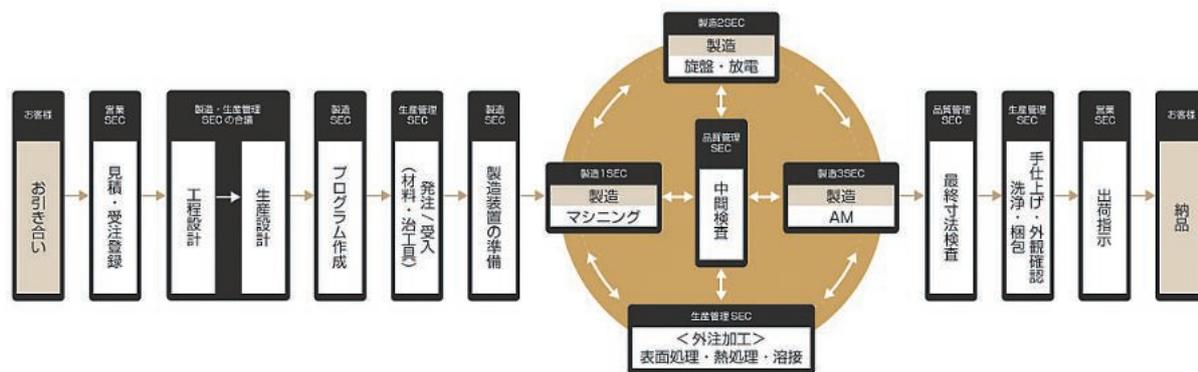
当社は、東北では数少ない「ティア1」企業として、航空宇宙、自動車開発関連部品、船舶産業の開発プロジェクトを製品部品で支えています。

*「ティア1」企業：直接最終製品メーカーに製品の大部分をまたは重要な部品を供給する企業

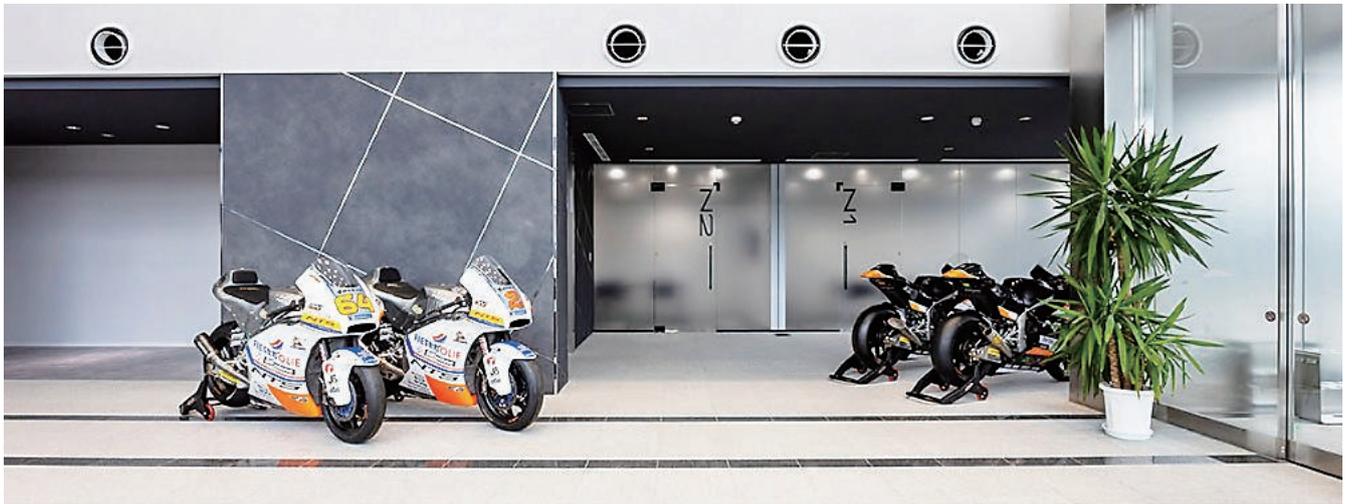
■下請けからの脱却・試作品加工への変換

～社長に就任してからの事業変革について教えてください

2002年、私が社長に就任してからは、それまでの金属加工の下請け・量産製造からの脱却を図るため、試作品の製作に特化する事業モデルへの転換を図りました。それまでは、海外向けの半導体部品なども作っていましたが、アメリカ同時多発テロの影響で、北米の仕事がほぼなくなってしまし、これまでのやり方では、いずれ会社はなくなってしまうと考え、新たな取組み、試作品をメインにした業態への転換をした方が、企業が存続する確率が高いと考え事業転換を進めました。試作品は高度な技術、完成品が要求される代わりに少量生産なら日本から海外に出ていけないし不景気にも強い会社ができるからです。

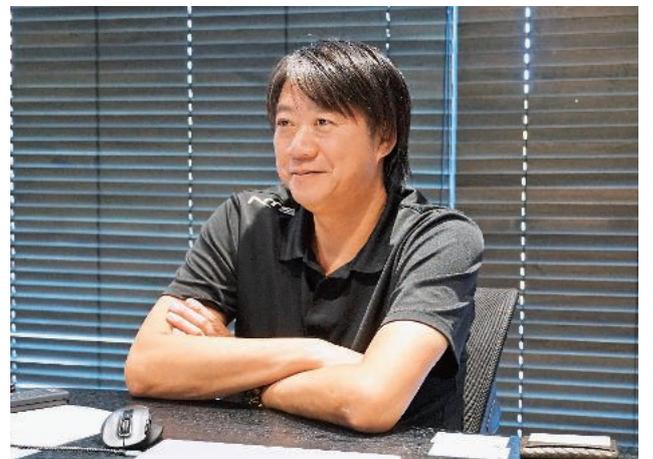


(株)NTSの受注から納品までの製造フロー



本社・工場エントランスには、世界選手権Moto2に参加したオートバイが展示されている

新たな取引先を開拓するため、2年間程飛び込み営業を行いました。飛び込み営業なので、話を最後まで聞いてくれる人は100人のうち数人程度でした。仕事があっても最初は、格安の仕事がほとんどでしたが、まずは一度仕事を引き受けました。納めた製品を見て納得してもらえれば次につながるし、開発のために必要な試作の仕事は必ず残ると確信していたからです。ものづくりに誠実に向き合い、技術を基にした製品を届けることによって信頼を得て実績を積み上げることによって、少しずつ取引先が増えてきました。現在当社では、自分たちからの攻めの営業を行っていません。納める製品を実際に見てもらい、確認してもらい、事が大事で、それがリピーターに繋がる大事なことだと考えていますしそれを見た周りの人からの口伝えからの新規顧客獲得も少なくありません。



取材に応じる生田目社長

更に取引先の裾野を広げるため、2006年にISO9001、JISQ9100（航空宇宙・防衛産業に特化した品質マネジメントに関する国際規格）を取得し、大手重工業からの受注も得られ、高品質の製品を納めることで更に信用と実績を積み上げ、取引先も広がっていきました。

■「誠実」に向き合う

～企業経営で大事にしていることは何ですか

企業を経営するうえで大事にしていることは一つだけです。「誠実」に向き合うということが大事だと考えています。

例えば、製品も「誠実」に売るという意味でみんなが納得して買ってくれるためには、私達は技術者なので、品質を数字で定量的に示し保証することが大事だと思っています。ここは昔から変



認定機関BSK（公益財団法人防衛基盤整備協会）の厳しい審査を受け航空マネジメントシステムJISQ9100を取得 品質管理を徹底



5軸マシニングセンタ（金属・精密部品の複雑な形状の3次元加工が可能）が並ぶ工場

わってなく、これからもずっと続けていきたいと思っています。

私たちの仕事は人と技術の調和で、機械や設備を新しくしてそれに人が追いついていくという調和がとれていて、「誠実」にもものづくりをしていれば、それで十分だと思っています。

■福島県から世界品質の製品を発信

～貴社の今後の展望について教えてください

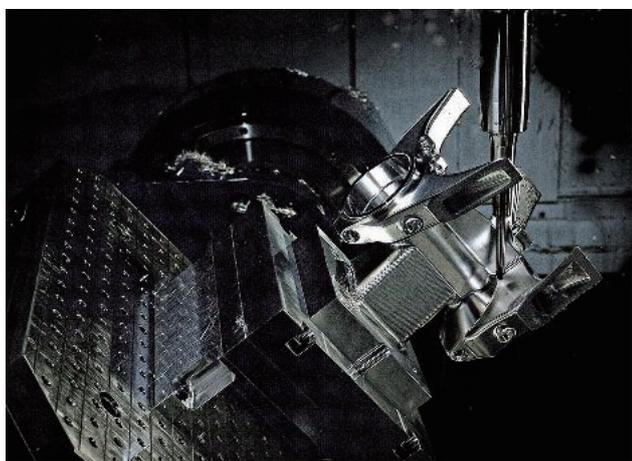
世界に通用する製品を作ることを目指しています。海外市場、特にヨーロッパからの受注が増えてきており、ヨーロッパ市場には品質とスピードで十分食い込んでいけるとしています。

海外に拠点を設けてはどうかという話もありま

すが、これ以上会社の規模を大きくすると品質管理も難しいですし、何よりも福島県、地元が好きなので、この地から世界品質の製品を発信していきたいと考えています。

今の会社は、親から預かっているものであり、みんなのものでもあるので、次の世代にバトンタッチしたいと思っています。その為には、生え抜きの人材を育て後継者になってもらいたいと考えています。

福島で、ものづくりをしている中小企業のドリームを作っていきたいと思っています。そのためには、今は基本的にOJTで行っている人材育成にプラスして、来年くらいから大手メーカーに長期間研修に行かせることなども検討しています。



5軸マシニングセンタでの製造過程



金属3Dプリンタ（金属粉末を熱で溶かしながら造形するため多種多様な造形が可能）の保有台数は国内トップクラス

■新たな「モノづくり」に挑戦

～社長ご自身の今後の夢はありますか

本業以外ですと、事業がある程度安定してきた2012年から、社長に就任してからの夢であったレーシングバイクの車体設計に取り組み始めました。以降は全日本、欧州選手権のロードレースへと徐々にステップアップし、2018年から2021年の間、オートバイロードレース世界選手権 Moto2クラス（排気量765cc）に自社設計、開発、製造したNTSオリジナルGPシャーシーを提供しました。環境の変化もありロードレースの現場からは撤退しましたが、スポンサーという形で今も繋

がりは持っています。一つの目標は達成出来たと思っています。

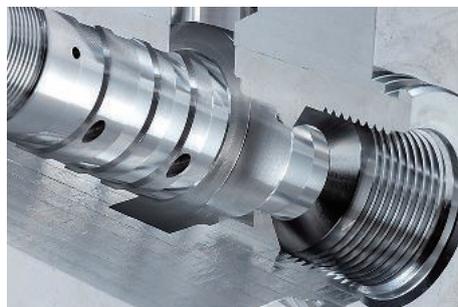
今、本業以外で取り組んでいることはオリンピック競技において福島で造られた自社の製品を使用し、福島県の選手が世界一になる、金メダルを取れるように技術面でサポートしています。ロードレース競技もスポーツ競技も会社の経営と同じだと考えています。

アイデアを生み、夢を見るのは「人」で、形にするのは「技術」だと思っています。これからも新たな「モノづくり」に挑戦していきたいと考えています。

【試作品・製品】



ガスタービン



ケーシング



コレクター



世界選手権Moto2にて使用した切削フレーム

【インタビューを終えて】

自ら道を切り拓いて目標に向けチャレンジし、「誠実」にもものづくりに向かう姿勢や、「中小企業でしかできない夢を追っていきたい」と熱くお話していた姿が印象に残りました。

オートバイレース世界選手権やスポーツ競技参加を通して培った技術で、今後も世界品質の「モノづくり」を目指す姿をずっと見続けていきたいと強く感じました。

（担当：嵐 俊勝）